

# まちに吹く新しい風



長い列を作る車に、おしゃれをしてアークードを歩く人々。この写真は今から50年前の昭和41年に、桜デパート（現まちなかパーク）前の歩道から旧市役所（現イベント広場）方面を撮影したものです。

当時の本町や北田町、大手町の商店街（中心市街地）は、市内をはじめ、大隅各地から大勢の人が集まり活気に満ち溢れていました。当時を知る人たちが「良い服を着てデパートに行くことが一番の楽しみだった」、「人が多すぎて肩がぶつかることも珍しくなかった」と語る様子からも、商店街が華やかで、まさにまちの中心と呼ぶにふさわしい場所であったことを伺い知ることができます。

昭和47年には北田交差点が県内初のスクランブル式の交差点となるなど、にぎわいを見せていた中心市街地でしたが、近年では郊外型の大型店舗の増加などにより、人と車の流れが変わり、次第に空き店舗が目立つようになっていきました。

## もう一度にぎわうまちに

このような中、平成23年、商店街にもう一度にぎわいをお願いする若者たちが集まり、北田商店

街周辺で「鹿屋バラ色商店街フェスティバル」が開催されました。このイベントは商店街の空き店舗を活用して行われたフリーマーケットで、大隅では珍しい雑貨や食品などを販売するお店が全国から集結。若者や家族連れを中心に1万人以上が訪れ、大変にぎわいました。

このイベントをきっかけに、まちづくりに関する新たな取り組みが加速することになりました。平成25年、同じく空き店舗が目立っていた京町で「一夜限りの屋台村『ぶらり京町横丁』」を初開催。また平成27年には、大隅の豊かな食材などを使った逸品がそろった定期市「食と暮らしのマルクト@おおすみ」が初開催されるなど、今、少しずつまちが変わろうとしています。

今号では、中心市街地を盛り上げようと始まった、新たな取り組みについて紹介します。



ほぼ同じ位置から撮影した現在の様子